

2025年度 すくわく 報告書 ポピンズナーサリースクール之江

テーマ 1 : 多文化理解

イタリア
スリランカ
ケニア
メキシコ
コスタリカ
フランス



2025年7月～12月

【テーマを設定する】

イタリアの多文化教育(動画)を通じてイタリアはトマトが有名な国であることを知った。エーデルワイス(年長・5歳児)クラスは、この夏、ナーサリースクールのテラスでトマトを育てていたの、トマトを使ったイタリア料理に興味を持った。

活動内容:僕たち私たちが作ったトマトでイタリア料理を作ろう!

問い:イタリアでは150種類ものトマトがあるって聞いたけれど、自分達の作ったトマトで美味しく食べられるイタリア料理はあるのかな?

【環境をデザインする】

- ・4~5歳児が一緒に、クッキングできる場所と時間を確保した。
- ・栄養士の先生に協力しイタリアのサンドイッチの材料を準備してもらった。

【探究活動を実践する】

● 活動内容

- ・イタリアで最初にトマトを食べるようになったきっかけをネットで調べたところ、鑑賞用だったトマトをお腹をすかせた庭師が食べたところ、その後イタリアのあちこちで広まったという話があり、とても興味を持った。
- ・トマトがなぜ赤くなるのか、をネットで調べた。
- ・トマトソースとチーズとパンを使って「パニーニ(イタリア風サンドイッチ)」が作れることをイタリア料理の本を見て調べた。

● 子どもたちの様子

- ・トマトソースを使ったピザは大好きな子どもが多いが、自分達でパニーニをクッキングすることになって、積極的にトマトに興味を持っていた。

【活動スケジュール】

人数:4歳児クラス12名5歳児クラス8名

日時:2025年7月22日(火)

場所:3階3, 4, 5歳保育室



【振り返りをふまえた気づき】

●職員カンファレンス

- ・イタリアでは有名な建物や古い歴史があることを知ったが、子どもたちは日頃から馴染みのあるパスタやピザの食べ物に興味を持ったようで、イタリアのトマトの種類が多いことには驚いていた。
- ・5歳児クラスの子どもたちが育てていたトマトに4歳児クラスの子どもたちも興味を持って見守っており、収穫後から楽しみにしていた。
- ・クッキングをすることになり、エプロンと三角巾をつけて子どもたちはとても楽しそうだった。自分達の育てたトマトを料理するということに、嬉しそうだった。
- ・観賞用だったトマトの話だけでなく、「トマト祭り」や「リコピン」などの言葉も印象に残ったようで、保護者に楽しそうに話をしている様子が伺えた。

【テーマを設定する】

スリランカの多文化教育(動画)で、年々ウミガメが少なくなっているというお話を聞いたり、ウミガメの保護施設を訪問する様子を見た。
スリランカではウミガメがビニールを食べてしまったり、モーターボートとぶつかってケガするなどの悲しい状況を知り、ウミガメについて調べることとする。

活動内容:日本のウミガメの生育や保護を調べてみよう!

問い:日本の周囲の海にウミガメはいるのか?遠い南の海までいかなくてもウミガメに会える場所があるのではないかと?そこで何かわかるかもしれない。

【環境をデザインする】

- ・日本の水族館でウミガメが飼育されているところを探す。
- ・実際にウミガメを観て、飼育員さんの説明をお願いする。

【探究活動を実践する】

● 活動内容

- ・ネットで調べたところ葛西臨海水族園に小笠原の母島からやってきた2匹のウミガメがいることを知り、実際にウミガメを観に行くことになる。
- ・2025年7月に孵化したばかりのアオウミガメの赤ちゃんを見つけ、水槽に子どもたちは張り付くようにして観察していた。

●子どもたちの様子

- ・飼育員さんの説明を熱心に聞き、成長して十分泳げるようになったら、大きな水槽(東京の海)へ移動するということを知り、大きくなった頃にまた観にきたいと言った。

【活動スケジュール】

人数:4歳児クラス12名5歳児クラス8名
日時:2025年8月19日(火), 9月18日(木)
場所:葛西臨海水族園



【振り返りをふまえた気づき】

●職員カンファレンス

- ・葛西臨海水族園では、ウミガメだけでなく、サメ、マグロ、クラゲ、ペンギン、深海生物なども子ども達には人気で、海の生き物に対する興味関心の高さをあらためて感じた。海の生物に興味を持つだけでなく、生き物への温かい眼差しを持つことができたのではないと思う。海へゴミを捨てない、汚さない、など生き物が住みやすい環境を作る気持ちを持ってくれることを望みたい。
- ・スリランカだけでなく、ウミガメにとって住みづらい環境になっていることを、飼育員さんの説明から学ぶことができた。海や川を汚さないだけでなく、レジャーや観光で生息域を侵さないことも大切だと学んでくれたと思う。
- ・このようにウミガメの保護施設のことが予想以上に子ども達の心を掴んだ。動画のスリランカの紹介も興味深いものはあったが、実物のウミガメのインパクトに代わるものはなく、環境問題など多くのことを学ぶことができた。

2025年度 すくわくプログラム ポピンズナーサリースクールー之江 報告書〈3ケニア〉

【テーマを設定する】

ケニアの多文化教育(動画)を通じてケニアの国立公園にいるたくさんの動物に興味を持った。キリンが水を飲む姿や、カバの水中散歩の様子などを観て本物の動物を観たいという気持ちを強くした。

活動内容:アフリカの動物達を身近に観て、観察してみよう!

問い:アフリカの動物は、昼間、どんな行動をとっているのか?水を飲んだりご飯を食べたりしているのか?どうやって過ごしているのか知りたい。

【環境をデザインする】

- ・4、5歳児が上野動物園に、園外保育として出かけられる日を調整した。
- ・保護者にお弁当の用意をお願いした。

【探究活動を実践する】

● 活動内容

- ・フランスのクリスマスの挨拶を調べる。フランス語で「メリークリスマス」は何というのか、ネットで先生と調べなおす。
- ・おたのしみ会の内容を話し合う。自分達よりも小さい、3~4歳児のお友達も楽しめるクイズや歌を考える。看板や各クラスへのお知らせを作る。
- ・司会はみんなで台本をつくり、順番で行うことにする。

●子どもたちの様子

- ・いつもは先生が考えていたお楽しみ会を自分達で考えていいということで最初は恥ずかしがっていた子どもも、いろんなアイデアを出し始める。

【活動スケジュール】

人数:4歳児クラス12名,5歳児クラス9名

日時:2025年9月30日(火)、11月14日(金)

場所:上野動物園



【振り返りをふまえた気づき】

●職員カンファレンス

- ・公共交通機関を乗り継いで上野公園へ行った。4歳児クラスの子供達は体力的にかなり辛かったと思えるが、最後まで自分の足で園内を歩き、励まされながらも、予定通り帰ってくることができたことは、今後の子ども達の活動の自信につながると思う。
- ・上野動物園には、世界中の動物が集められているため、アフリカ以外の動物もたくさん見ることができたが、時間の関係で今回はアフリカに住む動物に絞った。このことが、興味が拡散せずに、子ども達の集中を高めることができた。
- ・実物の動物の大きさ、匂いなどは、触ることができなくても、強烈な印象となって子ども達を包んでいることがわかった。

【テーマを設定する】

メキシコの多文化教育(動画)では、死者の日のお祭りで賑わうオアハカの街を訪れました。ガイドの方の紹介でメキシコの有名な場所や食べ物について教わりました。中でも子ども達が興味を持ったのは「ピニャータ」と言う星形の包みを棒で叩く遊びでした。

活動内容:「ピニャータ」について調べ、実際にみんなで遊び、海外の様々な文化に触れることで、文化の違いを知る。

問い:「ピニャータ」って何だろう? みんなで遊ぶといいことあるかな?

【環境をデザインする】

- ・みんなが遊べるよう「ピニャータ」を作る。
- ・子ども達が集まって、安全に棒でたたいて大丈夫な支柱を用意する。

【探究活動を実践する】

● 活動内容

- ・メキシコの「ピニャータ」を調べる。どんな時に「ピニャータ」を用意して、みんなで遊ぶのか、ネットで先生と調べてその謂れを知る。
- ・「スペイン語」で「uno,dos,tres」と掛け声をかけて、順番に棒で叩く。「悪いことに負けないように頑張る」という気持ちが込められている事を聞き、子ども達が順番に棒で叩いた。なかなか割れず、最後には先生が登場して壊した。

● 子どもたちの様子

- ・この遊びを初めて知る子どもが多く、とても興味津々でお話を聞き、棒で叩いていた。中のお菓子や星を持ち帰れることを大変喜んでいました。

【活動スケジュール】

人数:5歳児クラス8名と他の全園児(1, 2, 3, 4歳児)

日時:2025年10月28日(火)

場所:3階3, 4, 5歳保育室



【振り返りをふまえた気づき】

● 職員カンファレンス

- ・「死者の祭り」は、知っている子どもが増えてきたが、(ディズニー映画の影響)「ピニャータ」の遊びは知らない子どもが多かった。
- ・昔の星形のピニャータでは星の尖ったところが悪いことを表していて、棒で叩いて追い出すイメージが子ども達には心情的にピッタリくるようだった。
- ・見事壊れるまで、みんなで見守り、中身をみんなで分けることにも意味があると知ってとても目を輝かせていた、
- ・なかなか子ども達だけでは壊すことができなかったため、4歳児と5歳児の先生にも手伝ってもらったが、それを応援する姿がとても楽しそうだった。

【テーマを設定する】

コスタリカの多文化教育(動画)を通じて、コスタリカには野生動物がたくさん暮らしていることを知った。ガイドさんからは、ナマケモノの生態について詳しく説明を受けたが、子ども達には図鑑でしか見たことのないカラフルなカエルがジャングルに生息することが一番印象的だったようだ。

活動内容:カラフルなカエルは、どんなカエルなのか調べてみよう! 危険かも?

問い:コスタリカのキレイな色の「イチゴヤドクカエル」のような生物はどこにいるのか? 国や地域はどんなところなのか?

【環境をデザインする】

- ・5歳児のみんながネット検索できるよう、先生がサポートしてあげた。
- ・ネットや本で調べた生き物を、模造紙に書き写して発表できる準備をした。

【探究活動を実践する】

● 活動内容

- ・コスタリカ共和国の場所を地球儀で確認して、赤道に近い、暑い国であることを知り、他にも熱帯雨林を持つ国を探した。
- ・本で危険な生き物がとてもカラフルなことを知る。
- ・「危険生物」が載った事典を熱心に読み、写真を書き写した。

● 子どもたちの様子

- ・自分達が知っているカエルやトカゲとは比べ物にならないカラフルさに圧倒されながら、色えんぴつで楽しんでその姿を映し取っていた。

【活動スケジュール】

人数:5歳児クラス8名

日時:2025年11月27日(木)~12月12日(木)

場所:3階 5歳保育室



【振り返りをふまえた気づき】

● 職員カンファレンス

- ・子ども達が大変「危険生物」に興味をもち、世界中の危険な生物が載っている図鑑を気に入り、午睡をしなくなったエーデルワイス(年長)クラスでは「世界の危険生物」の図鑑が人気となっている事に驚いた。大人が眺めて、その毒々しさに「気持ち悪い」「見たくない」と思っている事が先入観の塊だと気付いた。
- ・子ども達は一生懸命「危険生物」の図鑑をみて、紙に気に入った生物たちを書き写して楽しんでいる様子に、興味関心の深さが大人の発想とは違うことを感じた。
- ・自分達で作った世界地図の上に、辞典で書かれた「生息域」の情報をもとにそれらを分布させて、真ん中に偏っているということは、「赤道」に近いということ、と気づいている子どもがいた。

【テーマを設定する】

前回の多文化教育(動画)を通じてフランスのクリスマスは家族やお友達が集まって過ごす大切な日であることを知る。パリのマルシェの様子やその雰囲気に触れ、興味をもった。

活動内容: 僕たち私たちがクリスマス会を企画し、園のみんなと楽しもう!

問い: フランスのクリスマスマーケットでは、いろいろなものが売られていたが、フランスにも、サンタクロースは来るのかな。フランス語ではどんな挨拶?

【環境をデザインする】

- ・1~5歳児のみんながクリスマス会を集まれる場所や時間を調整した。
- ・会で使う小物や備品を準備した。

【探究活動を実践する】

● 活動内容

- ・フランスのクリスマスの挨拶を調べる。フランス語で「メリークリスマス」は何というのか、ネットで先生と調べなおす。
- ・おたのしみ会の内容を話し合う。自分達よりも小さい、3~4歳児のお友達も楽しめるクイズや歌を考える。看板や各クラスへのお知らせを作る。
- ・司会はみんなで台本をつくり、順番で行うことにする。

● 子どもたちの様子

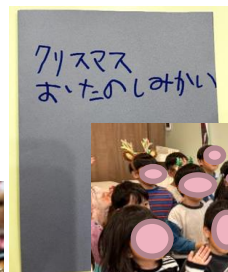
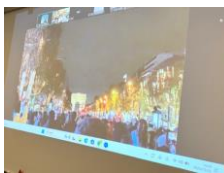
- ・いつもは先生が考えていたお楽しみ会を自分達で考えていいということで最初は恥ずかしがっていた子どもも、いろいろなアイデアを出し始める。

【活動スケジュール】

人数: 5歳児クラス8名と他の全園児(1, 2, 3, 4歳児)

日時: 2025年12月22日(月)~25日(木)

場所: 3階3, 4, 5歳保育室



【振り返りをふまえた気づき】

● 職員カンファレンス

- ・フランスにも子どもたちはサンタクロースが来ることに共感をもったようで、フランス語の挨拶、お祝い会など次々とアイデアが繋がった。
- ・子どもたちのリクエストにできるだけ対応できるように、準備の時間を十分に取っておけたことがよかった。
- ・これまでのスポーツフェスティバルや音楽会、また毎月のお誕生日会などを通じて、大勢の人の前で話すことのイメージができていたせいか、5歳児のひとりひとりが司会をこなすことに、前向きにチャレンジしているようだった。
- ・1~4歳児の他の子どもたちもいつもとは違う「5歳児さんが仕切るクリスマスお楽しみ会」にとっても興味をもって、楽しんでいるようだった。